

かわさき区の宝物シート

宝物No.	せんごんぼう 池言坊		
10-2			
エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物		



所在地	川崎区大師駅前2-1-2	
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会	
TEL	044-221-9117	
FAX	044-221-9117	
E-mail		
URL		
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩3分	

基礎情報

■江戸時代に大師河原の開発を行った池上家の墓所。現在の大師区池上から大師河原に移住してきた21代幸広以来の一家一門の墓塔が数10基並んでいる。川崎の産業と文化の発展に大きく貢献してきたことで有名な池上一族の中でも24代池上幸豊の名は広く知られている。

由来・エピソード

■池上家初代宗仲は、日蓮上人に帰依した人物。21代幸広は『水鳥記』にも登場し、新田開発のため池上家の土地（現大田区）約7万坪のほかに、日蓮上人ゆかりの品々を池上本門寺（大田区池上町）に寄進して、一族郎党を引き連れて大師河原に移住してきた。やがて開拓に成功し幸広は名主となった。

■そして、代々の開拓精神を受け継いだ24代幸豊は宝暦9年(1759)、14町5反（約143ha）の池上新田を開発した。また、サトウキビ栽培と砂糖の製造にも成功したほか、梨・桃などの果樹栽培や製塩などの殖産興業の発展にも貢献。

■幸豊の新田開発に参加した村民の多くは貧しい人々であり、新田開発の一部はこうした村民のためのものとして新田での収益は雑穀の貯蔵、村普請の資金、村民への貸付けなどにあてられた。様々な新田開発においてこのような田畑を「義田」といい、四谷上町にある義田稲荷神社はこれに由来している。また、文人としても知られる幸豊は、貴重な記録や随筆などを残している。まさに川崎の殖産、文化の先駆者である。

■池上家38世として生まれた幸操（ゆきもと）は安政2年(1855)生まれ。明治5年(1872)に池上新田戸長となり、明治8年(1875)2月から稲荷新田より潮田村まで10ヵ村海面汐除堤防掛として、明治12年(1879)に中丸子村から大師河原まで13ヵ村堤防掛を歴任した。明治12年(1879)に県議員に当選。

補足・その他

■平成11年(1999)5月、池上家32代幸政・よ志子夫妻によって酒合戦「350周年記念碑」が若宮八幡宮境内に建立された。同家は崇祖の志が篤く、池言坊は常に清掃や細やかな手入れが行き届いている。

関連シート

(8-2) 畑家墓所と頼政塚
 (10-7) 水鳥の祭
 (12-1) 四谷義田稲荷神社
 (13-1) 汐留稲荷
 (32-3) 池上幸豊